



これ、洞泉寺町の浄慶寺さんの大屋根の鬼瓦です。
町家物語館の3階の部屋から見上げると、こんな風に目の前におられる。
鬼瓦は魔除けで怖い感染病を防いで下さるから、ぜひここにお参りを…
…ということではないんですが、自分の部屋から間近にこんな鬼瓦が見えたら、やっぱり何か願いごとをしてみたくなるでしょう。
例えば、明日が幸せな日でありますように……とか、まあ、そんな願いを。

(洞泉町 浄慶寺の瓦 2004)



洞泉寺町の浄慶寺さんの瓦には古瓦も数多くあるが、よく見ると鬼瓦には銘も残されている。

「正徳六年 申ノ六月 柳六丁目瓦屋かわら熊 関孫七作」
正徳六年は1716年。かわら熊は今も郡山の柳六丁目に店構えの残る「瓦熊」さん。

歴史事典に、洞泉寺の町は宝永年間（1710年頃）に内町に編入され、地子免除を受けたとあるから、この鬼瓦は洞泉寺の町が生まれた頃に焼かれたもの、それからの長い時間、この町の出来事を見続けてきたのでしょうか。

（洞泉寺 浄慶寺の瓦 2004）

(参考年表)

- 1585年、長安寺にあった洞泉寺がこの地に移った時出来た町
- 1615年 水野勝成が仮住まいを始める(雑穀町にあった遊郭を移す)
- 1621年 松平忠明が士風に影響ありとして洞泉寺の花街を取り壊し
- 1622年 浄慶寺を洞泉寺町に移す
- 1688～1703 元禄年間、洞泉寺に花街が復活
- 1704年～11年間 内町最後の町として成立
- 1716年 浄慶寺の瓦